

6. [その他の課題について]

三刀屋町会場（三刀屋農村環境改善メインセンター）

Q38：子育て支援関係の充実ということから、試行的に木次の幼保一体化構想のお話があった。三刀屋町の予定はあるのか？また、一体化構想が出てきた原因はいくつかあるが、私の周辺では、最近赤ちゃんが生まれることが結構あって、高齢化率はどんどん下がってきている状況である。祖母はもちろん、両親も仕事をやめて子育てをするという環境は絶対にしてほしくない。また、自分も働いているが、年金をもらうより、市町村民税を払った方が市の活性化になると、意欲をもって働いている。今後私たちが仕事をやめて年金をもらうようになれば、ますます市の財政を圧迫すると思う。働いて市町村民税を払っているほうがいいと思うがどうか。

A：木次町では来年度から、幼稚園と保育所を一体化した認定こども園をスタートさせる検討をしている。三刀屋町の場合、保育所は三刀屋保育所がある。現在子供が増えてきており、今年増築し10月から20名子供さんが入所できる対応を図る。幼保一体化については、木次町を検証しながら進めていきたい。（健康福祉部長）

A：三刀屋保育所については、部長がお話ししたとおりたいへん盛況で、それに対する今後の対応についてということだが、幼保一体化の地域については、木次町の状況をみて取り組んでいかなければならない。お母さん方が働きやすい対策が求められているが、なにより就学前の子ども達の教育を同じ状況にしておかなければならないと考えている。そうした目的に向かってできるだけ早く実現できるよう努力したい。（市長）

Q39：将来的に原子力発電に頼らない社会の実現という話があったが、平成24年度からの具体的な、将来展望を見越した取組み、例えば、尾原ダムが水力発電に使えないかとか、空いている小学校の校庭を使っのソーラー発電とか、具体的に原子力発電に頼らないものがあるのかどうか。

A：全国では原発が54基ある。現実的にすぐに原発ゼロ社会というのは無理だろうと思っているが、まず第一に中国電力に対してきちんとした安全対策を求めていかないといけないし、国に対して、福島原発の原因がハッキリと示されていないし、安全対策もハッキリ示されていないということを市としてもはっきり言っていかなければならない。

また、原発に代わる代替エネルギー対策をどうしていくかということについては、太陽光発電、地熱発電あるいは水力発電と違いはあるが、市の地形や財政規模からして一番取組みやすいものから向かっていかななくてはならないと思っている。さしあたって、県として水力発電についての可能性を固めていこうと考えがでるので、基本的にはその方針に向かっていくということを現実的にやっていかなければならない。また、個人的ではあるが、各電力会社が原発に代わるものとして、火力発電のリニューアルではなくて、液体天然ガスでタービンを回す、ガスタービンコンバインドサイクル発電所というのを東京では作っている。これからはそれが主流になっていくのかなと思う。これだと、建設事業費も期間も短い、安いということで進められている。中国電力にもしっかりと検討していただきたい。（市長）

Q40：高速道路が開通すると、下の道が寂しくなる。市議会議員さんが「寂びれないように一生懸命頑張る」という話をされたが、その後、名案は？三刀屋の町も子供が少なくなってきた、町の中も高齢化とともに寂しくなってきた。

A：高速道路は、生活の利便向上のためにということだが、過疎に拍車をかけることとなつてはいけない。高速道路先進地では、過疎に拍車がかかっているところが島根県内にもある。その轍を踏まないようにしなければならない。

高速道路がついたことでストロー現象で人が出ていくということにならないようにというのは、市がスター

トした当初から頭に描いて対策をしてきた。雲南市ならではの地域資源を活かして、たくさんの人が雲南市に来て下さるような、魅力のある雲南市づくりが求められてきた。それをやってきたつもりである。かつてからの雲南市に残る財産といえば、大東の須我神社、加茂の岩倉遺跡、三刀屋では松本古墳などの文化財・遺跡があるし、無形文化財もある。尾原ダムも完成した。新しく道路ができれば、吉田町では入込客が増えている。広島まで完成すると、吉田の次に活性化施設ができ、インターから車で降りられるので、各インターから雲南市を巡ってもらえる。雲南市の魅力をいかに発信していくかを取り組んでいかなければならない。これからもしっかりと進めていかなければならない。

高速が開通すると、下の道路は予算が変わらないので維持修繕に力が入らないということになってはいけない。先般、国が音頭をとって、県、雲南市、飯南町、奥出雲町一緒になって検討しあう担当者レベルの会を開催した。早いところで対策をしっかりと話し合おうと思っている。(市長)

Q 4 1 : 先般、早急に現地調査ということがあったが、永井記念館について、全国にPRしてほしい。また駐車場の入り口を広げるということだったがどこまで調査が進んだか。議会でも協力を惜しまないという答弁があったし、活性化と言われるが、他町のプロジェクトばかりではなく、三刀屋町のこともお願いしたい。永井博士の功績は多大であり、観光で来られた人が駐車場にバスが入らないという話をよく聞いてきた。地元への配慮を考えていただかないと。活性化とかという話ばかりではないのでは。

A : 先般の議員の質問は、永井記念館ではなく、明石緑が丘公園のこと。道の改良についてであった。現在発注している。(建設部長)

Q (再質問) : 話が少し違っていると思うが。

A : 議会での質問は、明石の道のことであって回答させていただいた。おっしゃるとおり、永井記念館での進入についてはバスが入らないのは事実。関係者はもとより、長崎との交流、平和賞等々、たくさんの方が来られるし、交流も拡大も図らなければならない。平和賞を積極的にやっていって偉業についての情報発信は力を入れて行っていきたい。また施設の老朽化について、リニューアルしなければならないが、市の総合計画に位置づけ、総合計画がしっかり実践されるように財政計画に裏付けされたものでないといけない。現在、総合計画を見直しているが、大きな事業が控えており、これも兼ね合いで実施計画にも載せていかないといけない。いつ、何年度にということは検討を進めているところである。(市長)

Q (再々質問) : そういう話がなかなか下の方には降りてこない。僅かなお金をつぎ込めばバスも入ってもらえることから、できる限り地域が良くなるようにお願いしたい。

A : 高速の位置づけとも繋がっている。検討したい。(市長)

Q 4 2 : 高窪では、原発のセシウムの堆肥が残っている。高窪だけでなく、給下、古城の一部の人もどうしたものかと。給下から高窪にあがる道に除草剤をかけたが、笹をとって笹巻きされる人に「除草剤が撒いてある。牧場のほうに行ったら」というと「あそこに行くとガンになるのでいけない」と言われた。まさに風評被害である。JAの(代表理事)組合長も市が斡旋したところに捨てるとおっしゃっていた。今日は市もおいでなので、早く持って行ってもらいたい。

A : たいへんご心配をお掛けしている。処理についてはJAで対応していただくことで検討されている。最終処理ではなく、中間処理、一時的に保管の対応になる。圏域では飯南、奥出雲、市内では吉田の施設にもある。JAでは、中間処理施設をつくって保管していこうと検討されている。できるだけ早く撤去してほしいということについては理解している。対応してもらおうようJAに働きかけをしたい。もうしばらくお待ちいただきたい。(産業振興部長)

Q (再質問) : (代表理事) 組合長の話はそうじゃなく、市でそれ (施設) を用意してもらおうとJAとしてはすぐ持って行くということだったが、JAと市が意思疎通して、一本の方針を出してほしい。今は熊やイノシシが混ざる状態で保管してある。なんとかどこかへ持って行ってほしい。早急をお願いしたい。3ヶ月、今年いっぱいになんとか。

A : 市で施設を用意してほしいということは聞いていないが、期限を切って対応したい。(産業振興部長)

Q 4 3 : JAとの話について、もう少し、互いに文書でも取り交わしてもらわないと。聞いていて、どっちがどうなのか責任所在が全く分からない。先ほどの話 (永井記念館駐車場) でも、前任の建設部長が答弁された。議事録にあるのだから、意見があるということは「はい」と言ってもらわないと。よく考えてそういうことに対して前向きに進めてもらいたい。せつかく、高窪がやってほしいといっても、訳が分からない。こんなことではいけないのでは。

A : 決してJAと市がそりが合わないということではなく、汚染されたわらを送ってもらっていたのはJAなので、JAでお願いした。支援の仕方は検討している。早めに結論を出したい。(産業振興部長)

Q (再質問) : やっぱりその話が繰り返すだけ。流れを偉い人と偉い人に話して、キチッと話をつけてこの場で発表されないとだめ。

A : 早急に対応する。(産業振興部長)